

傲慢

知っておきたいキリスト教のことば (72)

傲慢という言葉はマルコによる福音書7章21～23節の「悪徳表」の中に出てきます。またローマ・カトリック教会の七つの大罪（暴食、色欲、強欲、憤怒、怠惰、傲慢、嫉妬）の中にも含まれています。

この「傲慢」という言葉は、口語訳聖書では「高慢」と訳されていました。祈祷書の司祭按手式の嘆願に、「すべての罪、高慢、虚栄、偽善、ねたみ、憎しみ、恨み、またすべての無慈悲から」、「主よ、お救いください」とありますが、高慢と傲慢は同じ意味です。どちらにせよ、とても大きな罪に数えられている行為です。

さて傲慢とは、自分や自分の能力を過大に評価することです。おごり高ぶりと言ってもいいかもしれません。

聖書の中に出てくるファリサイ派は神さまから与えられた律法を細かく解釈し、一生懸命守ります。しかし律法を守ることのできない人たちを蔑み、見下していきます。ある場面でファリサイ派の人が、「神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します」と祈りました。イエス様はそのようなファリサイ派を「高ぶる者」と呼び、彼は低くされるのだと言います。

ファリサイ派と同じような思いを、わたしたちも持つことがあります。他の人を見下してしまったり、自分は何か特別な人間なのだとか誤解してしまったり。傲慢の対義語は謙遜です。わたしたちが心から謙遜になれたときに初めて、自分は小さな存在であり、神さまから生かされているということがわかるのです。

次回は「克己（こっき）」です。お楽しみに。

